再作成することにした.

そして透析室スタッフを対象としトラブル時の電話対応についての勉強会を行った．PD担当スタッフ2人が患者役と電話対応看護師役となり，具体的な事例をもとに作成したトラブル時電話対応マニュアルを用いて理論づけた説明とデモンストレーションを行い，スタッフの理解を深めることができた.

スコープ洗浄・消毒の履歴管理　（内視鏡室での取り組み）

内視鏡室　　山本　文子　　竹沢ひとみ
白井　雪乃

内視鏡室では，3年前より，スコープの履歴管理をはじめました．履歴管理は，適切に洗浄，消毒をしている証明になります．感染対策の基本は「洗浄・消毒に関するガイドライン」を遵守することですが，その質の保証をするものとして，履歴管理が重要になってきます．内視鏡検査や治療において，患者から感染の可能性を指摘されることは，今後あるかもしれません．こうした事を想定した場合，洗浄消毒を確実に行っていることを，目にみえる形で，残す必要があります．また，あってはならないことですが，記録に残すことで，感染が起こった場合，スコープがどのように，使用されたか，後追いができることです．最初ですから，手書きで，記録として残していくことを目標にしました.

記録として残したい項目として①患者名とID番号　②患者に使用したスコープ③洗浄日時　④使用した洗浄消毒装置　⑤消毒薬の濃度・効果をあげ，方法をかんがえた．受付事務，介助NS,処置NS,洗浄係とそれぞれの役割をもとに，施行していった.

忙しい中，記録する作業がふえたが，スタッフの協力のもとに継続していくことが重要であり，原因追求の為だけでなく，自分たちが，きちんと洗浄消毒したことの証明になることを理解し，進めていった．現在では，履歴管理は，業務の一環となり，あたりまえのように，なっている．内視鏡室の検査，治療を安全に行うために施行している一つとして発表します.

検査技師による病棟採血業務の取組み

検査部　　酒井　悦子
採血ワーキンググループ
3－7病棟　　野田美由紀　　牧野　仁美
高橋　涼子

Ⅰ．はじめに

2006年度の診療報酬改正で，看護師配置7：1にて入院基本料が大きく改正された.

急性期病院において7：1を維持することは病院収益においても必須である．検査部と看護部は相互の連携を目的に2006年より合同会議を行ってきた．その中で看護師不足の状況より看護支援として，“検査技師による採血”の提案がなされた．2010年よりまず外来採血業務が検査部に移行し順調に稼働した．更に2011年より病棟採血業務導入に向け検討を重ね2013年6月より開始することができた．検査部・看護部の病棟採血への取組みを報告する.

Ⅱ．方　法

検査部内の採血ワーキンググループでは，実施するにあたっての問題点を挙げ，その問題点に対して，どのようにしたら円滑に病棟採血業務を実施することができるかを検討した．検討内容は採血時間，対象病棟，採血担当技師数，対象患者，検査部側の条件等であり，それにより，病棟採血アクションプランを作成した．看護部では，このアクションプランをスタートできる病棟として，3－7病棟を選択し，病棟でも方法を検討し実施に至った．

Ⅲ．効　果

病棟採血後の意識調査を行った．検査技師が病棟採血業務を行うことの効果として，看護部側では①採血業務にかかっていた時間を他の業務に使える，②患者への対応に余裕ができる，③検温にスムースに回れる，④看護業務の負担が軽減した，等が挙げられた．また，検査技師側では①臨床支援・看護師の負担軽減に貢献，②患者への意識が高まる，③採血技術が向上，④患者に臨床検査技師の業務に関心をもってもらう機会になれる，等々と回答された．

Ⅳ．まとめ

検査技師が病棟採血に携わることにより，チーム医療の一員としての認識が高まっている．また，看護師においては，看護の質の向上に繋げることができると考える．今後は技師・看護師の相互理解の基，スキルミックスを推進しそれぞれの職種が専門性を発揮し，より質の高い医療の提供をしていきたい．

新人看護職員と実地指導者の親睦研修～活動報告～

看護部　教育担当者　研修企画担当
3-4病棟　杉山　倫代　梅木真理子
6-3病棟　太田亜希子　畑中　美乃
3-7病棟　牧野　仁美　高橋　涼子

Ⅰ．はじめに

当院は新人看護職員教育体制として，プリセプター・チューター制度を行っている．新人看護職員の個別指導や精神的なサポート役としてのプリセプター・チューター（以降実地指導者とする）をつけることで，新人看護職員への効果的な教育やストレス緩和・職場環境への早期適応を促すこと，また，実地指導者についても看護職員・指導者として成長することを目的としている．今回，平成24年度の実地指導者の1年の振り返りの中で，新人ともっと早い段階から関係性を深める為の研修や親睦会などがあれば良かったという意見があった．そこで新人看護職員と実地指導者との親睦研修を企画・実施し，結果として新人看護職員と実地指導者がお互いを知る機会となり，関係性の向上に効果があった為報告する．

Ⅱ．研修目的

新人看護職員と実地指導者が親睦を深め，人間関係の構築につなげる

Ⅲ．方　法

1. 対象：新人看護職員22名，実地指導者22名　計44名
2. 研修内容：新人看護職員と実地指導者が，お互いの好むパンケーキを作り，ティータイムの時間を通して「今後2人が目指す関係性」などを記入するメッセージカードを作成し，親睦を深める．
3. データの収集方法：研修終了後，研修1ヵ月後にアンケートを実施．目的が達成されたかとその理由を記載する独自の質問紙を作成した．